十島村教育委員会だより　平成 29 年４月号

むらやかトカラ情報

南北１６０㎞　「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒 892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL　099-227-9771

４月・・・トカラへようこそ

十島村教育長　有村孝一

毎年のことながら、「フェリーとしま」の４月の第１次航は、十島村の学校に赴任する先生方を任地へと送り届ける便となっています。今年は、暦の関係で4月3日がその日でした。

船には多くの激励の言葉を書いた横断幕が張られ、桟橋のあちこちでは、校歌を歌う声や万歳と叫ぶ声がとぎれなく聞こえてきます。そのたびに、激励に感謝をこめて、頭を下げている先生の姿がそこにあります。これまでの学校で精一杯頑張って、その時々の思いが頭をよぎり、名残は尽きない深夜11時の鹿児島南埠頭でした。

これより先、午後1時から新任教頭の辞令交付式、２時からは転入教職員宣誓式が行われました。新任教頭は４人。平島小・中学校の平田教頭は、１０年ぶりに本村に赴任する女性教頭です。しかも宝島が故郷ということもあり、その瞳はさらに輝いているように感じられました。これで、県下４３市町村すべてに女性管理職が配置されたことになりました。４人の新たな教頭先生がどのような新しい風を吹かせてくれるか、楽しみにしていたいと思います。

さて、宣誓式の方は、転入する３６人の先生方が、希望とやる気に満ちた顔で臨んでいました。それぞれの島で、先生方ならではの教育に励んでいただきたいと思います。

午後１１時、見送りの人であふれる南埠頭には、県教育委員会教育次長、鹿児島教育事務所長をはじめとする多くの皆さんも見送りに来てくださいました。私は、新任の先生方をそれぞれの港で紹介して引き渡すべくフェリーに乗り込みました。日ごろは鳴らない汽笛が鳴ると見送りの方々の声が一段と大きくなりました。

出港して6時間３０分後、最初の口之島から港でのセレモニーが始まりました。

先生方は、初めて島を目の当たりにしている先生方は、天気も良く、ラッキョウの引き締められた歓迎の日頃海もかのごとく静かでで凪ていました。これ感じは、先生方を歓迎した。良くからの先生方の活躍に期待するものです。

平成29年度転入教職員宣誓式

４月３日（月）午後２時、十島村役場４階大会議室で転入教職員宣誓式が開催されました。福澤副村長、荒田教育事務所長、有村教育長の激励の言葉の後、転入教職員を代表として平島小・中学校の平田歩実教頭（宝島出身）が、「トカラには、厳しい環境の中、頑張っている島民がいる。島の教育・活性化に頑張りたい。先生方と一緒にみんなで頑張ろう。」と力強くあいさつされました。

その後、転入職員一人ずつの挨拶があり、不安と緊張の中に「島の子どもたちのために頑張るぞ！」という意欲が語られました。

平成２９年度は、児童生徒数が８１人、教職員数は６９人です。他の市町村の子どもたちにも負けない十島ならではの教育が展開される期待を持たせる宣誓式でした。

「ＴＶ会議」で細かな打ち合わせ！

４月 13 日（木）・・・ＴＶ会議活用推進委員会
４月 18 日（火）・・・中学校連合職場体験学習

５月２８日（日）~６月３日（土）職場体験学習に生徒２７人と教職員９人が鹿児島市内で体験学習をするために開催されました。

祝 中之島小中学校：「３月の若い目賞」

※内容、取組の継続など高く評価されました。

【お知らせ】児童福祉週間(5/5~11)
５月５日の「こどもの日」から１週間、子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的としています。

シリーズ――新聞に投稿１

（平成２９年３月１７日南日本新聞掲載）
小宝島小2年　有馬　らん

どこ見ても竹だらけ

お別れ遠足で竹の山に、はたを立てに行きました。竹の山は、サンゴがニョキニョキともり上がった山で、高さが１００メートルぐらいあります。名前の通り、あっちもこっちも竹だらけです。

竹林をぬけたちょう上に立つと、どこを見ても青いすき通った海でした。とても気持ちよかったです。学校をさがしました。学校の後ろにはサンゴの海がんが広がって、白い波がザブンザブンしていました。学校にむけて大声でさけぶと、るす番をしていた教頭先生が手をふってくれました。

はたをみんなで立てました。はたには、みんなが来年がんばることを書きました。わたしは、「学校行事、がんばる」と書きました。

学校に帰ると、竹の山のてっぺんにヒラヒラするはたが見えました。見守ってもらっているみたいで、とてもうれしくなりました。

シリーズ――新聞に投稿２

（平成２９年３月２７日南日本新聞掲載）
中之島中2年　羽生 伊織

先輩が「島立ち」する

高校のない僕たちの島では、中学校を卒業すると「島立ち」の日が来る。在校生は、見送りの時船に掲げる横断幕を作り、全員が応援メッセージを書くのが伝統だ。

今年も、３人の卒業生のために、１５人の小中学生で横断幕を準備している。その中の１人の先輩とは、小学校入学依頼８年間一緒で、僕はずっと頼りにしていた。

みんなで書いたメッセージを見ると、「僕のサッカーをほめてくれてうれしかった」「助けてくれてありがとう」など、感謝の気持ちがちりばめられていた。先輩を信頼し、頼りにしていたのは僕だけではなかったとつくづく思った。

小さな島の学校から大人数の高校に進学する気持ちとは、どんなものだろう。僕たちのリーダーとして信頼されてきた先輩なら、きっと大丈夫だ。

来年は僕の番だ。先輩が島を去れば、最上級生の中３は僕１人。先輩のような頼られる存在になれるだろうか。今の僕は程遠い。だが１年後、後輩たちからもらう横断幕を前に胸を張って船に乗れるよう、最上級生としてがんばっていきたい。

シリーズ――新聞に投稿３

（平成２９年３月２８日南日本新聞掲載）
宝島小6年　平田　一葦

夢を追い続けたい

国語の学習で、野口聡一さんが書いた「宇宙飛行士ーぼくがいだいた夢」という文章を読みました。野口さんの生き方を知り、とてもすごいなあと思いました。

大学受験に失敗したり、何年も夢がかなわなかったりしても、あきらめなかったからです。

ゆめである宇宙飛行士の試験に合格した後も、十年以上も訓練して宇宙に行きました。

私はまだ将来の夢が決まっていませんが、もし私だったら、夢をかなえるためだけに、十年以上もかけることはできなくて、その夢をあきらめていたかもしれません。

でも野口さんの文章を読んで、これから先夢が見つかったときは、野口さんのようにあきらめないで夢を追い続けようと思いました。

十島村の小・中学校からのメッセージ

小宝島中学校　教諭　大當　政文

夜明けとともに朝食をとり、自転車で散歩に出かけた。小宝島の道路は、起伏が少ないので自転車は便利だ。畑には、もう人影があった。

「おはようございます。」とあいさつすると、「おはよう、今日はすごく空気は澄んでいるから奄美大島が見えるよ。見えるポイントは、・・・。」と教えてくださった。そのポイントに向かう途中に牛舎がある。牛舎の前に、もう軽トラックが止まっていた。「おはようございます。」とあいさつすると、すごく元気なあいさつが返ってきた。「今日は、奄美大島が見えると聞きました。」というと、「だったら、その先から見えるだろう。」と、さっき教えていただいたポイントと同じ所を教えてくださった。これまで南は横当島、上ノ根島、北は中之島、臥蛇島、小臥蛇島まで見たことがある。

口之島は、中之島に隠れるためか見たことがない。奄美大島は見えないのだろうか。フェリーの船長さんに見えるはずだと、教えてもらっていたが見えないので、ずっと気になっていた。ポイントに着くと本当に見えた。地球が丸いからであろう。

あんなに大きな島なのに、見えるのは湯湾岳付近のほんの少しだけである。小宝島に赴任して間もない頃、小宝島に住むといろいろな島が見えるから、外の世界を見たくなるものだと聞いたことを思い出した。

その言葉の意味とは少し異なるが、確かに毎日のように今日はどの島が見えるだろうと気にするようになっている。

これまで、保護者をはじめ住民の方々から、いろいろな事を教わった。数か月放置した畑を耕そうとした時、耕耘機を縦横かければ効果的であることを教わり納得した。他にも野草のおいしい食べ方、魚釣りや岩海苔のポイントなど、実に貴重なものである。あとどれくらいこの生活を続けられるか分からない。時間と感謝の気持ちを大切にしながら生活したいものである。

教職員である「あなた」への私からのメッセージ

授業中、生徒の目が輝かないと何となくこちらの気持ちも塞いでしまいます。授業は、生徒にとっても自分にとっても、いろいろな意味で重要なものです。

生徒も自分も満足する授業のためには、多くの準備が必要ですが、中でも教具と心身共に充実した自分だけは毎日準備しようと心がけています。

【十島村教育委員会事務局異動！】
よろしくお願いいたします。
○学校教育指導監：今村徳幸　○村誌編集委員
○社会教育指導員：和田章一　井上俊英、麓純雄